



LD親の会「けやき」機関紙

第96号

2011年10月発行

発行者・代表 三輪 覚子  
けやきホームページ URL

〒198-0014 東京都青梅市大門 1-787-8  
<http://www.ne.jp/asahi/hp/keyaki/>

## 11月講演会のご案内

皆様、いかがお過ごしですか？

すっかり秋も深まり、暖かい昼の日差しについて油断していると、夕暮れの早さに驚いてしまう毎日です。お仕事や家事・子どもの対応にお忙しい方もおいでかと思いますが、11月の講演会では、心に余裕を感じる「学びの秋」を体験してください。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

**日時** 平成23年11月26日(土) **開場・受付開始** 13:00  
**講演会** 13:30~16:00  
**会場** 武蔵野公会堂 第1・2会議室 (JR中央線 吉祥寺駅・南口)  
**講師** 小栗 正幸 氏(特別支援教育ネット代表・特別支援教育士スーパーバイザー)

《講演テーマ》



「どんな大人にしたいですか」

～ 家庭や学校でできる二次障害予防の心得 ～

《申込み》

お名前・お立場・ご連絡先を明記の上、11月19日(土)までに  
下記メールアドレスへお申込みください。

[keyaki@box.club.ne.jp](mailto:keyaki@box.club.ne.jp)

資料代 1000円・当日受付にて申し受けます。(けやき会員は無料です)

主催 LD親の会「けやき」

後援 東京都教育委員会



## 講師と講演内容のご紹介

小栗先生は、法務省に所属する心理学の専門家（法務技官）として、犯罪者や非行少年の資質鑑別に従事し、京都、大阪などの少年鑑別所や成人矯正施設に勤務した後、鳥取少年鑑別所長、宮川医療少年院長を経て、2009年3月に退官されました。現在は特別支援教育ネット代表として、思春期・青年期の逸脱行動への対応をご専門に、各地の教育委員会・学校・福祉関係機関・発達障害関連の「親の会」等への支援を行っています。

障害が原因で起こる失敗や挫折のくり返しから、感情や行動にゆがみが生じ、周囲を困らせる行動をとることを二次障害といいます。大切なのは、二次障害を起こしてから  
の支援より、起こさないための予防です。そしてそれが、本当に子どもの育ちを支える  
ものでなければなりません。LD等発達障害のある思春期の子どもの、子育てに悩む親  
御さんや、支援に携わっている教育機関等の関係者の方々にお聞きいただき、参考にし  
てほしいと思っています。



## 小栗先生の最近の論文・著書等（\*単行本）のご案内

◇齊藤万比古編著(2009)、共著、『発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート』、  
小栗正幸、「少年非行と二次障害—医療少年院における外在化障害への支援」、学研。

◇浜井浩一・村井敏邦編著(2010)、共著、『発達障害と司法』、  
小栗正幸、第3章「非行と発達障害の関係」、  
第10章「少年鑑別所・少年院での処遇」、現代人文社。

◇鳥居深雪編著(2010)、共著、『思春期から自立期の特別支援教育』、  
小栗正幸、「非行化した子どもの育て直し」、明治図書。

\*小栗正幸(2010)、『発達障害児の思春期と二次障害予防のシナリオ』、ぎょうせい。

◇長澤正樹編(2011)、共著、『特別支援教育』、  
小栗正幸、「発達障害と少年非行—学校のできる非行対応の要点」、  
現代のエスプリ、526、ぎょうせい。

\*小栗正幸監修(2011)、『行為障害と非行のことがわかる本』、講談社。

## 7月・例会報告

7月23日(土)、『お父さんの勉強会 ～ 今 親の会でできること ～』をテーマに、7月例会を開催しました。

おやじの会の皆さんが中心になって進行してくださり、お父さん6名を含む30名の参加があり、ご夫婦でも数組参加をいただきました。

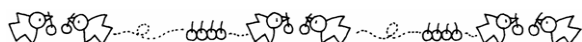
まず、おやじの会作成のパワーポイントによる「けやき活動概要」紹介を、4月の総会に引き続いて今回も行いましたところ、参加者から「けやきのことがよく分かった」との声を多くいただくことができました。

さらに、お二人のお父さんから、話題提供として子育てに関わってきた体験談を聞かせていただきました。内お一人は当日都合がつかなかったのですが、事前に文章にしてくださいましたので、代わりに読み上げて発表させてもらいました。

お子さんに診断名がついた時（検査結果を聞いた時など）まず本屋に走り、関連書を求めた・・・という体験談には、ほとんどのお父さん方が同じような行動を取っていたことも話題になりました。学校選びの際は父親も一緒に見学を重ねたことや、指導者との出会いが転機となったこと等も聞かせさせていただき、参加した方々からも沢山意見を交換しました。

それぞれ表現や方法は違っていますが、お父さんもお母さんも同じ気持ちで子どもに関わっていることが、とてもよく感じられた例会となったと思います。（M）

### 参加者の感想



- ◆妻が積極的に参加している「けやき」の活動がよく理解できました。体験談は、私自身共通した思いが多くあって良かったと思います。皆さん同じような体験をしているんだと感じました。
- ◆我が家の歴史を振り返りながら聴かせていただきました。今までのことはもうどうしようもない事なので、これから成人になるわけですし、大人の男同士としてお酒でも飲みながら、人生について語り合って欲しいと思います。
- ◆「けやき」の成立から説明があり、知らなかったお話を聞かせていただきありがとうございます。瀧澤さん、光長さんのお話は重なり合うところ、まったく違うところ、人それぞれにあると思いました。
- ◆お父さんたちが今回は多く参加されていたので、もっと長い時間お話を伺いたかった。母親と同じくらい深く苦しんでいるのが分かり、涙が出そうになった。
- ◆お父様方のいろいろなエピソードが聞けてよかったです。うちの娘は、父親と大きな確執があり、父のことを無視しています。父親の方もどう接すればよいか分からず、接することを避けてしまっています。いつか時がきたら溝なくなると今は楽観視しているようです。でも私は、一つ一つわだかまりをなくすように努力しなければいけないのではないかと感じています。今日お話を伺ったお父様のように、コミュニケーションが円滑にできる日がくればいいのですが。

---

---

## 日本LD学会・第20回大会開催

9月17日から19日まで、跡見学園女子大学に於いて開催された、  
日本LD学会・第20回大会について報告します。

---

---

### 「初めてのLD学会」

厳しい残暑が続いていた9月、日本LD学会第20回大会が17日から19日までの3日間、茗荷谷駅近くにある跡見学園女子大学を会場にして開催された。今回のテーマは、「あらためて問う発達障害児の学習支援—知能・学力・生きる力—」だった。

兼ねてから出席したいと思ってはいたものの機会がなかったが、今回1日だけ出席することができた。地下鉄の駅を降り立つとすでに会場への人の流れができていて、中にはキャリーバッグを引きながら向かう姿もあり、全国から集まる人達の意気込みが感じられた。

分厚いプログラムの中から何をを選ぶか迷ったが、息子の年齢・課題から「通常高校における発達障害生徒の就労支援と移行支援（口）」（自主シンポジウム）と「大学における発達障害学生の適応と支援」（教育講演）の2つに出席した。出席者は研究者・教員・学生・支援者・親・当事者と立場は様々であった。

通常高校では一部の意識の高い教員が就労の教育に取り組んでいられること、しかし組織としての取り組みではないために教員の転任により継続されずに終わってしまうことなど、現状では発達障害生徒への支援がまだまだ途上にあることが理解できた。大学においては発達障害学生の数が近年増えてはいるが、支援のあり方は各大学に任されていて現実は厳しく、診断があってもすべての教職員が理解し配慮してくれるとは限らないという。講演の中で語られた目的意識をしっかり持って入学することが肝要との言葉が強く頭に残った。

ポスターによる研究発表も数多くあり、発表者の前には人垣ができていた。親の会の展示室に寄るとほっとし、他の会の方達とも交流ができた。

駆け足ではあったが学会の雰囲気に触れることによって刺激を受け、前向きな気持ちになれた充実した一日だった。 (M.N)



### シンポジウム①『発達に偏りのある青年を支える』

～「自立」に向けたそれぞれの未来予想図の描き方～に参加して

「気になる子がわくわく育つ授業」などの著書で知られる品川裕香さんの話を聞くため指定討論会であったが参加した。今年で三回目というこの討論会では「支援のゴールをどこに設定するか」をテーマに話が進められた。

話題提供として出された、現中学教師の米内山氏とアスペルガー症状群の診断を持つA君との、北大土曜教室やその後に来たごぶサタ倶楽部における七年間のかかわりについての話が興味深かった。A君は氏が最初、あこがれの北大の学生であったことや、

高校進学に向けて苦しんでいる時に援助したことなどから次第に全幅の信頼を寄せるようになっていったという。氏はこの関わりをカリスマティックアダルト（本人を常に無条件で受け入れてくれ、また本人が全幅の信頼を寄せている成人のこと）という視点からとらえていた。ごぶサタ倶楽部が関わり手と当事者である青年をつなぐハブとしての役割を持って活動し、当事者自身の自立と、当事者たちの仲間集団としての自立を模索している様子が伺え、親としては羨ましさを感じながら聞いた。

指定討論者である品川氏は「成人期になってから理解する人がいないと不適應を起こしやすい」「自分でリスクマネジメントがあれば何とかやっていける」「反社会的行動・非社会的行動をしなければよい」「精神的自立がなければ社会的自立はない」「社会的絆がブレーキになる」「適切な支援をすれば必ず成長する」「関わる人があきらめないこと」「実は教師や支援者ほど自己理解やメタ認知、批判的吟味力が必須！」などの重要なことを簡潔、明快に話されていた。わが子にも親以外の理解者や伴走者がほしいと切実に思い、それを見つけるためにも社会的絆としての親の会や支縁機関とのつながりの重要性をますます痛感した二時間だった。



## シンポジウム②『学びのユニバーサルデザインを授業に生かす』

### ～ 理念を実践に取り入れる模索の第一段階として ～ に参加して

発達障害児への配慮や指導方法が実はどの子にもわかりやすいものであり、それが誰にでも使いやすい製品や環境を目指すユニバーサルデザインに通ずるものであるということから「学びのユニバーサルデザイン UDL」がまとめられたという。その実践報告を聞いた。

あるベテラン小学校教員の一学期における初めての取り組みの様子が興味深かった。教科書を PDF ファイル化してデジタル教科書のように使ったり、プロジェクターとデジカメとホワイトボードを駆使したり、グループワーク・トレーニングを行ったり、連絡帳にまるほ（褒められた回数）を書かせるといった取り組みが紹介され、教師経験のない私にはどれも新鮮だった。結果が出るには期間が短すぎるが、今後の取り組みに期待したい。

次に UDL が当たり前になっている米国 NY 州での公立小学校の実情を聞いた。各部屋に電子黒板やパソコンが置かれ、理解力によって三グループに分かれた子どもたちに複数の指導者が当たり、まさに理想ともいえる授業風景が展開されていた。

UDL には「障害は生徒ではなく、カリキュラムにある」「すべての生徒に最適なただ一つの方法は存在しない」という明確な理念があるという。日本では今なおついていけない者は置いて行かれ、LD 児への個別指導でさえ偏見の目で見られるので、せっかくの支援を受けないという例さえあるのが実情だ。

誰もが一斉に同じ授業を受けるのではなく、一人一人に合った学習スタイルが学校においても当たり前に行われ、障害があってもなくてもその人に合ったスキルを身に着け、仕事をして生活していける世の中になってほしいと切実に思う。そのためにはまず子どもの中から多様性を当たり前とする教育を受けることが必須であると強く思った。

(Y.M)



## 全国LD親の会・企画シンポに参加して

今回のLD学会は大変盛況で、多くのシンポジウムで「満員のため入場終了」の貼り紙が入口の扉に出された（立ち見は消防法により禁止）。2日目の朝、遅れて会場に着いた私が階段を登り5階の教室に辿り着いた時、既に扉には貼り紙が……あー!!またやっちゃった。どうしよう。この親の会のシンポだけは聴きたかったのに……入口の扉の横に洒落たスリット状の細窓があり中の様子が見える。よし!!ここに座って外から聞くぞ!!と廊下に座り込む。う～ん聞こえん、スクリーンも斜めでよく見えないなどと思いつつ座ること15分、余りの様子に会場内のスタッフさんが「どうぞ」と御自分の席を譲って下さった……本当に申し訳ありません。ここまで図々しく粘るなんて……当然入れて頂けたのは私一人だけだった。他の方は貼り紙の前に「あきらめて」いるのだから本当に特別の計らいだ。さすがADHD+アスペ持ち……自分でもやるのがメチャクチャだと思う。

そっと着席するとお茶の水大の篁倫子氏の報告が終わり、“えじそんくらぶ”の高山恵子氏の講演が始まるころだった。子どもを支えるキーパーソンであると同時に子どもと共に日々苦しみ不安を抱える「当事者」としての親への支援の必要性、親もまた発達障害傾向を持つことが多く、親子の相互作用で生じるストレスから重度のうつ状態になることもあること、ストレスマネジメントが重要で、そのための支援プログラムもあるとのことのお話だった。自分にそっくり当てはまる気がする……その後、全国LD親の会の内藤孝子氏から「成人期の子どもを持つ保護者へのアンケート調査」報告があり、相談機関の支援も受けられないまま、発達障害の子どもの将来に不安を抱える保護者の悩みの深さが浮き彫りになった。指定討論は厚生労働省の小林真理子氏と司会の山岡修氏（全国LD親の会）で進められ、親のQOLの安定が子どもの安定につながる、そのための親支援の新たな方向性について討論が成された。その中で、高山恵子氏の「ちょっと病んでいる人の方が良い支援者になれる。共感ではなく同感出来るから」という言葉が印象に残った。何かうれしい言葉だった。最後にもっと沢山参加したかったが、会場に入れず残念だったと感想を残して報告としたい。（I.H）

## 8月・交流会報告

### 8月27日（土）東京都多摩社会教育会館で、けやきの交流会が行なわれました。

夏休みを中心に、最近の様子や経験談など語り合いました。中学生組からは、トレーニング（ワーキングメモリー・ビジョン）やスポーツ（スペシャルオリンピックス）の情報がありませんでした。高校・大学生組は、職業適性検査の受診、自動車学校への通学、合宿参加など、決してのんびりした夏休みではない体験を聞きました。青年組からのお金の悩みに関して、年金のことにも話が広がりました。恋愛のこと、思春期の男の子と母親の距離、進路のこと等々。「悩みは尽きない」が結論となった感は否めませんが、声に出して、聞いてもらった悩みは、ほんの少し軽くなった気がします。（M）

## 9月・交流会報告

- ・開催日：9月24日（土）
- ・会場：東京都多摩社会教育会館
- ・テーマ：「自立できるための支援」

今回はアドバイザーとして小平市障がい者地域自立生活支援センター「ひびき」の澤口節子氏をお招きし、参加者からの話題を通して自立支援のためのアドバイスをいただきました。

### 話題1. 障害手帳を取って就労することを子どもが受け入れられないのですが。

：多感な時期は受け入れられないこともあります。時期を待つことが大切です。その時期が来た時に背中を押してあげるのも親の役目です。成人期の課題は「自己理解」「自己肯定感」「相談できる場所」です。親以外の支援者が大切です。仕事を探すとき障害者職業センターを使ってください。その時、子ども一人で行くと単発で終わってしまうかもしれません。ぜひ、自立支援センターに関わってもらいながら行ってください。

### 話題2. 中学校受験で見学に行ったら、ここに行くと夢中になって「だめでもいいからやってみたい」と言うのですが。

：やってみたいという気持ちは大切です。親の役割は予防線を用意してあげること。ほかの学校もあと1つか多くても2つ見学に行くといいですね。私立を考える人は多いですが、地域も大切です。公立校もいいですよ。

### 話題3. 子どもはお給料がうまく使えず、たまる一方です。どうしたらいいでしょうか？

：「どう使いたい？」と聞いてみてください。いつも買わないものを買うとか、たまっているものをどうしたいのか。「たまっているわねえ」と独り言を言っておくのもいいです。かかっているのに見えないお金、つまり厚生年金や社会保険、引かれているお昼代などどんなものが含まれているのか、お給料の明細書を本人が見るようにしてください。通帳を2つ用意して一つは障害年金、もう一つはお給料。生活するのにかかっているお金（家賃）はもらったほうがいいです。家計にゆとりがあれば、別のところに積んでおいてあげてもいいですね。

『子どもが小さいうちは「大きくなったらどんなかなあ」とちょっとずつでもイメージを持っておくことが大切なポイント』とか『面と向かって問題にしてしまうと処理が難しくなるときは「それはどうかな～」とつぶやいておくといいですよ。』と高度なテクニックの伝授もありました。

澤口さんは終始穏やかな口調で、さらりとおっしゃるのですが、その中に大切なことがしっかりあるのです。毅然とした態度で臨む親の役割と子どもの心に寄り添う言葉や姿勢を教えてくださいました。その言葉の一つ一つがストーンと心に落ちて、暖かな気持ちになりました。また、ぜひアドバイスをいただきたいです。

(S)

## 東京都へ要望書を提出しました

9月26日付で、東京LD親の会連絡会（代表・新堀紘太郎）では、今年度も東京都知事宛に要望書を提出いたしました。にんじん村・くじら・けやきの3会の代表の連名により、教育関係（都教育庁）・福祉保健関係（都福祉保健局）・就労雇用関係（産業労働局）それぞれへの要望項目としています。

直接各局ご担当者様からの回答をいただける時間と場所を調整してくださる予定です。参加できる人数に制限はありますが、貴重な機会となりますので、回答の際には多くの会員に関心を寄せていただきたいと思います。日程は決まり次第お知らせします。

※昨年度までの資料（回答等）は、けやきホームページから東京LD親の会連絡会のホームページに進んでいただくとご覧になれます。

## 自主グループ活動報告



**つくしは、学齢期の子どもを持つ親たちの意見交換の会です**

つくしの仲間が増えました。

二か月に一度の交流会では、勉強のこと、進路のこと、友達とのことなど参加したそれぞれの体験談を基に話題は尽きません。

子どもらの困り感を、どのような方法があり、親たちはどう支えればよいのか！参加者それぞれが体験したことなど、情報交換の場になっています。

《次回交流会》

日時：12月10日（土）10：00～12：00

場所：国分寺労政会館

瀧澤

## おやじの会

今年度のおやじの会の活動は、これまでの例会後等の懇親会主体からはちょっと違ってきます。総会時は会の活動、役割等をスクリーンに視覚的に紹介して皆さんの会に対する理解を少しでも深めていただくことに、また7月例会のお父さんの勉強会では二人のお父さんに子育て体験談をしていただきました。勿論、懇親会を通じた活動も欠かしておりません。今後も少ないメンバーではありますが、おやじの会ならではの活動を通して子供の理解・支援を深めていきたいと考えております。

藤本



## ■自主グループ活動報告■

### ポーレ ポーレ

今年度も月1回、主に第2日曜日にボランティアさんと活動しています。

#### ☆4月10日(日) 話し合い(多摩障害者スポーツセンター)

3月の東日本大震災後、初めての活動でしたので、当日の様子をみんなで語り合い、近況を報告しました。その後、カードゲームやDSをして、最後に9月までの活動計画を話し合いました。

#### ☆5月8日(日) 調理(国立市福祉会館)

メニューの「焼き飯」と「たこ焼き」で2班に分かれ、買い物をして調理しました。「初めて作ったがうまくできた」や「少し失敗もしたけれどおいしかった」等の感想ができました。

#### ☆6月5日(日) 野球観戦(神宮球場)

ヤクルト対楽天戦を見に行きました。試合はヤクルトが14点を取り圧勝。

#### ☆7月10日(日) ナムコナンジャタウン

池袋のナンジャタウンに行きました。みんなでお化け屋敷のようなアトラクションでクイズゲームをしました。また、フリーパスでアトラクションを中心に遊んだ人、フードコーナーでご当地餃子やアイスをつっぷり食べた人、それぞれ楽しく過ごしました。

#### ☆8月14日(日) バーベキュー(昭和記念公園)

当日はとても暑い日でしたが、メンバーたちがイスやテーブルや道具を運んだり、野菜を切ったり、食材を焼いたり、後片付け等自主的によく動いてくれました。以前、親も参加していた夏のキャンプでの食事の準備を思い出すと、現在のメンバーたちの成長を頼もしく感じました。バーベキューの時間が限られていたため慌ただしかったですが、親としては久しぶりに皆に会えて嬉しい一日となりました。

#### ☆9月11日(日) 話し合い(多摩障害者スポーツセンター)

夏休み、最近話題のニュース、仕事等いろいろな話をして、メンバーのお土産を食べたり、カードゲームをしました。それから、10月以降の予定を決めました。

#### ☆10月9日(日) ゲーム(国立市福祉会館)

人生ゲームと近況報告をしました。

#### <これからの予定>

- 11月13日(日) 散歩
- 12月18日(日) カラオケとボーリング
- 1月 8日(日) 部屋でゆっくり過ごす
- 2月12日(日) 江戸東京博物館ともんじゃ焼きなど、下町の食事を楽しむ
- 3月18日(日) 調理 (T.A)



## キャリア教育講座 Wing



**Wingは親自身が、地域の専門家の力を借りつつ、自らの努力をもって、キャリア教育講座を立ち上げ、企画・運営している会です。**

今年度のWingは、3月～6月までの親講座と7月～12月までの親子講座を実施し、今まで使用したプログラムを更に使用しやすいものにした教材作りをしています。

### 冊子を販売しています！

Wingの3年間の活動報告書が出来ました！！

親の会が講座を実施する意義、目的、内容、参加者の声、ボランティアさんの声、なぜキャリア教育が必要なのか？今後の課題、など盛り沢山の内容で大切なメッセージを発信しています。申し込みは新堀まで

### 親子講座を実施しています！

第2回講座は8月18日（木）東京障害者職業センターで検査実施しました。

大東コーポレートサービス(株)の山崎さんをお願いして作業実習と見学をし、その後、品川プリンスホテルで懇親会をしました。



職業センターでは、検査後に一人ずつ個人的に結果を知らせていただき、丁寧な対応をしていただきました。大東コーポレートサービス(株)では、紙の枚数を数えたり、名刺の箱の組み立てをさせていただきましたが、本物の商品である為、手順を間違えないことや綺麗に折るなどの指導を受けながら、皆、真剣に取り組んでいました。会社見学は、社員の方々が自分の仕事に誇りを持ちながら、しっかりと働いている姿を目のあたりにして学ぶ事も多く、プログラムには欠かせない事と思えました。夏の合宿が出来ないことは残念でしたが、しっかり輪が出来ました。



第3回講座の「面接」では、就労支援関係者の進行のもと、(株)いなげやの人事担当の方に実際に面接をしていただきながら、ご指導とアドバイスをいただきました。また、ボランティアさんに面接のお手本になってもらい、障害者の面接と通常業務の面接の違いなどを見せていただいたことも、大変勉強になりました。今年度は、中学3年生が多いので、高校受験の面接にも役立つ事でしょう。

### 新メンバーが加わりました！

講座には、新しいボランティアさんにご協力いただいていますので、さわやかな新しい風が吹いています。

## ■自主グループ活動報告・Wing■

### LD学会に参加してきました！

9月17日・18日・19日に行われたLD学会では、教材チームが中心になりWingの報告書を販売しました。親の会のブースでは親の会同士だけでなく、学会参加のいろいろな立場の方とお話することが出来、有意義な時間を過ごすことが出来ました

### 12月・講演会を実施します！

日時 12月3日(土)

会場 新宿NSビル

テーマ 「発達障害のある生徒のキャリア教育」

～ 普通校でのあり方を考える ～



普通校に在籍する発達障害の児童・生徒に焦点を当てながら、親や支援者は現状をどのように理解し、本人をナビゲートするには何が必要か、等について一緒に考えたいと思います。障害と健常の間で揺れ動く心へのヒントになればいいと考えています。先着60名までの参加募集です。

◇サイト・f a xにてお早めにお申し込みください。

◇詳しくは、同封の案内をご覧ください

### 障害者職業総合センター研究発表会で口頭発表をします！

12月19日・20日に障害者職業総合センター研究発表会が行われます。

この発表会は職業リハビリテーションに関する調査研究や実践の成果を広く周知し、参加者の間で意見交換、経験交流等を行う場です。また、有識者による講演やパネルディスカッションも行われます。

今年度は、Wingの取り組みを口頭発表する事になりました。少し、緊張ですが新たな挑戦です。

共同研究者は以下の通りです。

小金井市就労支援センター・ボーバル聡美氏、福井大学・武澤友広氏、

神奈川県立保健福祉大学・松為信雄氏、Wing・榎本容子氏、Wing・新堀和子

新堀(和)

### 《寄贈本の紹介》(回覧希望の方は三輪までご連絡ください)

- ◇「発達障がい児の保育とインクルージョン～個別支援から共に育つ保育へ～」  
芦澤 清音 著(臨床心理士・帝京大学准教授) 大月書店
- ◇「たすくの療育 J☆SKEP アプローチモデル  
～たすくメゾットと機能的な目標～」  
たすく 編著 齊藤 宇開 監修 たすく株式会社

# 散歩道



## ボケも成長過程の一途？

先日 BS放送で森山良子さんが「A l e・A l e・A l e」と言う曲をタンゴ調で歌っていました。「あれ・あれ・あれ」という歌だそうです。

会話中に人の名前とか品物の名前とかがとっさに出てこなくて「何だったけなーほら、あれだよあれ」、そのあれです。隣の部屋へ探し物に来て「あれっ何しに来た？」ってありませんか？ デパートで偶然すれ違ってその人の名前がでなくて知らん振りして通りすぎた事もあります（相手もそうだったのかも）。落語の「粗忽長屋」のまくら話で、向こうの方から知ってる人が近づいてくるが名前がでない、思わず「コンチワードなたでしたっけ？」「ばかやろうお前のおやじだ」って話があります。笑ってばかりおれません。友人から「近頃お前はあれ、とか、あのーとかが多すぎる」とか「物忘れ外来」で診断受けたらとか言われます。

それにしても子どもの記憶力には感心を通り越して腹立たしくなります。朝の連続テレビ小説の題名も出演者もぞろぞろ出てくるし、それも何年も前のものからです。電子手帳に「脳年令測定」というソフトが入っていました。やってみると実年令67歳に対して38歳。ということはこの年令から既に始まっているという事でしょうか。ボケない為の本がたくさん出回っていますが、1日に5人以上と話すことで効果があると聞きました。しかし、ボケも成長の一途、老いて行くための準備だと誰かが言っていました。先日近所のレコード店に森山良子さんのレコードを買いに行きました（ちゃんとメモに書いて）。

光長 信義

### 編集後記

家内は毎週2回ほど、小学生に放課後学習の指導をしている。その学習中に起こったこんな出来事を話してくれた。地図の大好きなA君が、日本地図の勉強中にたまたま鳥取砂丘を調べていると“日本最大の砂丘”という説明書きが添えられていた。しかし、これを見たA君は「ちがう！日本一大きい砂丘は青森県にある」と言い始めたのだ。いきなり言われた家内や他の担当の母親たちは半信半疑。信じてもらえないA君はどうとう臍をまげてしまった。そこで母親の一人が、すぐその場で携帯の検索サイトで調べたところ、何とその通りだったのだ。それは「猿ヶ森砂丘」と呼ばれ、下北半島の太平洋側に位置し、沿岸部は幅約1~2km、総延長約17kmで鳥取砂丘とほぼ同じだが、内陸部も含めると日本で最大の砂丘だといわれていることが分かった。砂丘の大部分が防衛省の敷地になっているため、一般の観光客は通常立ち入ることができない。これが日本一の大きさにもかかわらず知名度が低い理由らしい。さすがA君、さぞや鼻高々だったことだろう。しかし、私たちが今まで常識だと思って信じていたことについて、改めて一つ一つ検証し直すべきかもしれない、と考えさせられてしまった。(K.M)